大阪大学D&Iセンター／人間科学研究科

DE&Iセミナー

障がいのある人の視点から考える大学のDE&I
―UCLと大阪大学の取組から―

リアルタイム配信あり

2026年

12.9 水

15:00～17:00

Center for Diversity & Inclusion The University of Osaka

多様性を認めあうキャンパスへ DE&I 大阪大学大学院人間科学研究科 DE&Iプロジェクト

HaCC 大阪大学ウェルネス推進機構 健康支援相談センター

会 場	吹田キャンパス 大阪大学・日本財団感染症センター 101大ホール
対 象	本学構成員（教職員・学生）
使用言語	日本語（英→日 逐次通訳あり）

開会挨拶　林 美加子　[大阪大学理事・副学長]

基調講演

UCLのEDI政策と取組（仮）

サラバハイヤ クマール
Sarabajaya Kumar

[Vice Dean (Equality, Diversity & Inclusion) /
Associate Professor, Faculty of Social & Historical Sciences,
University College London; 大阪大学特任教授（常勤）]
※クロス・アポイントメント教員（人間科学研究科）

事例紹介・パネルディスカッション

進行：貝原 亮　[21世紀懐徳堂 准教授]

本学の障がい学生支援の現状（仮）

山森 一希　[ウェルネス推進機構健康支援相談センター
相談支援部門 アクセシビリティ支援室
特任研究員（常勤）]

障がい者雇用に関する取組

田中 真紀　[人事企画部障がい者雇用推進室 専門職員]

人間科学研究科DE&Iプロジェクトの紹介

八十島 安伸　[人間科学研究科長]
斉藤 弥生　[人間科学研究科 教授]

閉会挨拶　太刀掛 俊之　[ウェルネス推進機構
健康支援相談センター長]

申込締切 12/2

参加申込

参加方法、情報保障等に関する詳細は、ウェブサイトをご確認ください。

主 催	大阪大学 ダイバーシティ&インクルージョンセンター 人間科学研究科
共 催	ウェルネス推進機構健康支援相談センター 人事企画部障がい者雇用推進室

大阪大学ダイバーシティ&インクルージョンセンター／人間科学研究科　DE&Iセミナー
障がいのある人の視点から考える大学のDE&I ―UCLと大阪大学の取組から―

概要

本企画は、本学人間科学研究科がOUマスタープラン2027実現加速事業として進めるDE&I（Diversity, Equity & Inclusion）の取組と、本学ダイバーシティ&インクルージョンセンターにおける取組「DE&I強化期間」とを結びつけて、共同で実施するものです。

12月に本学のグローバルナレッジパートナーであるユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（University College London: UCL）からのクロス・アポイントメント教員であるクマール氏（Dr. Sarabajaya Kumar、受入部局：人間科学研究科）を招き、セミナーを開催します。UCLのEDI（Equality, Diversity & Inclusion）政策について基調講演をいただき、併せて本学の関連部署からの登壇者によるパネルディスカッションを行います。

大阪大学ダイバーシティ&インクルージョンセンターでは、2026年6月から12月をDE&I強化期間とし、各種研修等を企画しています。当該期間の全体テーマは、“Diversity is a fact; inclusion is an act.”「ダイバーシティは事実（fact）であり、インクルージョンは行動（act）である」としています。

目的

障がいのある人の視点から、誰もが学び、働き、大学の活動に参画できる環境の実現に向けて、本学の制度・環境及び支援のあり方を再考し、今後の施策・取組の検討に資する示唆を得ることを目的とします。

UCLのEDI政策と、本学の障がい学生支援及び障がい者雇用に関する取組を共有し、パネルディスカッションを通じて、大学における制度・環境や日常の関わり方に潜む障壁と、その解消に向けた課題を検討します。これらを通じて、参加者一人ひとりが自身の立場から取り組める行動を考え、本学におけるインクルージョンの実践につなげる機会とします。

開催日が「障害者週間（12月3日～9日）」に当たることからも、障がいのある人への理解と社会参加の促進という同週間の趣旨に通じる企画として位置づけます。

登壇者

サラバハイヤ クマール
Sarabajaya Kumar

[Vice Dean (Equality, Diversity & Inclusion) /Associate Professor, Faculty of Social & Historical Sciences, University College London; 大阪大学特任教授（常勤）] ※クロス・アポイントメント教員（人間科学研究科）



University College London（UCL）社会歴史科学研究科准教授。UCL総長室設置のEDI（Equality, Diversity and Inclusion）部門のVice Dean（副部長）を務める。専門は市民社会活動論で、研究テーマは公共政策におけるボランタリーセクターの役割、障がい者の権利と平等、階層間の不平等など。また障がい者団体のリーダーを務め、障がい当事者（車いす利用、視覚障がい）の立場から、政府の障がい者支援、DE&Iに関わる専門アドバイザー等の複数の要職を務める。2023年6月、クマール氏の来日に合わせ、本学ユネスコチェアと人間科学研究科DE&Iプロジェクトが、クマール氏制作の映画“Four Stories, Four Lives, Four Disabilities”の上映会を実施。この映画は大阪、ロンドン、ストックホルムを舞台に、コロナ禍の障がい学生の生活を描いたドキュメンタリーで、UCLと大阪大学に通う障がいのある学生が出演している。

クマール氏は大阪大学特任教授（2026年5月～2027年3月）として、11月半ばから1か月間、大阪大学に滞在し教育と研究に従事する。クマール氏の招へいは大阪大学マスタープラン2027実現加速事業（人間科学研究科DE&I実装キャンパスプロジェクト）、大阪大学「クロス・アポイントメントによる女性教員受入れ支援制度」によるものである。



山森 一希　[ウェルネス推進機構健康支援相談センター 相談支援部門 アクセシビリティ支援室 特任研究員（常勤）]

脳性まひによる車いすユーザー。博士（障害科学）。

小学校から高校まで特別支援学校ではなく、通常の学校での就学経験を有する。大学にて特別支援教育を専攻し、小学校および特別支援学校において教育実習を経験、教員免許を取得する。大学を卒業後、大学院に進学し援助要請の抵抗感に関する研究で博士号を取得。博士課程に進学すると同時に、障害学生支援コーディネーターとしてのキャリアを開始。現在までに国立大学や私立大学の障害学生支援部署において、様々な障害のある学生の修学上の合理的配慮の調整経験がある。2026年9月から現職。



田中 真紀　[人事企画部障がい者雇用推進室 専門職員]

2015年4月本学事務職員として医学部附属病院医事課に採用後、財務部資産管理課を経て、2024年12月人事課障がい者雇用対策チーム（現・人事企画部障がい者雇用推進室）に配属、2026年4月より同専門職員。同室においては、大阪府下や兵庫県下の高等支援学校等と連携し、生徒の社会的自立に向けた職場体験実習受入れや卒業生の採用等といった社学連携活動、さらに従来の作業にとどまらず、個々の特性に応じた新たな職域の開拓に取り組んでいる。メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種、アクセシビリティリーダー2級、障害者職業生活相談員、精神・発達障害者しごとサポーター、育休後アドバイザーを取得。

＜参考＞本学の障がい者雇用への取組
https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/jinzai/diversity/handicapped_support/act/eco

※登壇者紹介の「障がい」「障害」の表記は、提供された原文を尊重しています。